



# (社)全高P連会報

社団法人全国高等学校PTA連合会 (連絡先) 〒101-0025 東京都千代田区神田佐久間町2-1(奥田ビル) TEL03-5835-5711 FAX03-5835-5757  
発行人 高間専逸 URL <http://www.zenkouren.org/> eメール info@zenkouren.org

## 東日本大震災—お見舞いと義援金のお願い

平成二十三年三月十一日に発生した「東日本大震災」は、東北・関東地方に甚大な被害を及ぼしました。この大震災ならびに巨大津波によって被災されたみなさまに、心よりお見舞いを申し上げます。また、亡くなられた方々に対し、心よりお悔やみを申し上げます。特に想定を上回る大津波では多くの方が亡くな

り、その中には我々の仲間であるPTA会員や子どもたちも含まれており、今だ行方不明になっている方々もいます。被災の実態や被災者の消息が明らかになるまでには、さらに長い時間がかかると思われる。そうした中、復興に向けた動きが始まり、国内はもとより、世界中から支援の手が向けられてい

ます。私たちは、今こそ心一つに災害に見舞われた子どもたち、保護者のみなさまや学校をしっかりと支援していきたいと思えます。その一つとして資金的支援があると考えます。つきましては、趣旨をご理解の上、全高P連の募金活動に何とぞご協力を賜りますようお願い申し上げます。

### 東日本大震災

#### 義援金のお願い

全高P連会長

高間 専逸

#### 〈趣意書〉

すでに報道されておりますように、東北地方太平洋沿岸を震源とするマグニチュード九〇という千年に一度の大規模な地震が発生し、この地震に伴う巨大津波が太平洋沿岸を襲いました。この災害によって多くの方が被災され、亡くなられた方、避難された方の数は史上希にみる状況です。また、家屋、公共施設をはじめ、自治体そのものが流され、

そして多くの市町村が壊滅状態になりました。全高P連として、このような災害に遭われた高等学校、高校生及び保護者、教育関係機関に対し心からお見舞い申し上げます。こうした状況を鑑みて、全高P連は広く義援金を募り、東北地区を中心とした高等学校PTA連合会に贈呈し、教育支援のため活用していただくよう義援金の募集を決定しました。本趣意書にご賛同いただいで、全高P連の義援金募集活動にご協力くださいますようお願い申し上げます。

### 義援金受付方法

- ①都道府県市高等学校PTA連合会で集約
- ②単位PTAから直接→高P連の義援金口座
- ③振込先：三菱東京UFJ銀行 上野中央支店(店番号065)普通口座  
口座番号：0065911  
口座名義(カナ)：シャダンホウジン ゼンコクコウトウガッコウ  
ピーティーエーレンゴウカイ ヒガシニホンダイシンサイ  
(漢字)：社団法人全国高等学校PTA連合会  
東日本大震災義援金口 会長 高間 専逸  
\*振込手数料を差し引いて入金をお願いします。

## 今号の主な内容

- \*平成22年度 高校生の生活・意識調査結果概要…………… 2～5頁  
健全育成委員会が京都大学木原雅子准教授のご協力を得て実施した調査の結果から見られる特徴的なものをご紹介します。なお、詳細については、各学校に報告書が送られますのでご覧ください。
- \*シリーズ青春白書…………… 6～7頁  
未来を見つめ頑張る子どもたち、そしてその子どもたちを熱意をもって導く先生たち、保護者の姿をお伝えします。今号は、東京都立文京高等学校と北海道羅臼高等学校からの便りです。
- \*シリーズ視点「ケータイ甲子園2010」…………… 8頁  
高校生たちは今、自主的に望ましいケータイの活用法を考えはじめています。「ケータイ甲子園」はこうした取り組みを奨励し、表彰することで優れたケータイの活用方法を広めようとする企画です。「安心ネット」委員の高橋顧問からの報告です。
- \*第2回総会・会長事務局長会議報告…………… 9頁
- \*平成23年度 活動方針・事業計画…………… 10頁
- \*各委員会報告…………… 11頁
- \*第61回全国大会北海道大会のご案内…………… 12頁

# 平成二十二年度高校生の生活・意識調査結果概要

## 健全育成委員会

本年度の調査は、文部科学省委託事業として健全育成委員会が中心となり、京都大学准教授木原雅子先生を委員長とする協力者委員会の企画によって実施したものです。

この調査は、昨年8月末から9月上旬にかけて、全国45校の生徒とその保護者の協力をいただき実施し、調査結果の分析は木原雅子先生にお願いしました。ここに紹介する記事は紙面の都合で一部分のみを掲載しております。

### 対象者一…高校二年生

対象者数(分析対象者数)…高校二年生3,439人(男子1,575人、女子1,864人)

### 対象者二…高校二年生の保護者

対象者数(分析対象者数)…高校二年生保護者2,942人(男性320人、女性2,622人)  
(但し、性別不明15件、途中放棄32件は分析対象外)

### 要 要

\* 高校生の現状の概要  
\* 保護者の結果は高校生の現状と比較して記載  
\* ここでは、特徴的な結果のみを紹介

### ■生活の現状

#### 一・高校二年生の家庭学習時間(塾の勉強時間を含む)

・ 帰宅後の学習時間は、「まったく勉強しない」が半数を超え男子59.3%、女子55.1%にも達し、60%弱の生徒が帰

宅後全く勉強していません。

・ 高校二年生全体の一日の帰宅後の平均学習時間(塾での勉強時間を含む)は男子35分、女子36分と男女とも著しく短いことが明らかになった。この結果より、学校側の指導内容に対する検討だけでなく、高校生自身の能動的学習態度の育成が今後の課題であると考えられる。

#### 二・高校二年生の授業理解「授業についていけないか？」

・ 「ついていけないことがよくある」という生徒は男女とも25%前後に達していた(男子24%、女子26%)。昨年度、実施の全国調査でも全く同様の結果が得られ再現性があることから、近年の高等学校の授業に対する憂慮すべき実

態を示しているものと考えられる。

#### 三・意欲の状況「あなたが一生懸命取り組んでいることがありますか？」

・ 意欲の状況(高校生)…内容に関わらず一生懸命取り組んでいることが「特にない」と回答した生徒が20%、25%(男子90%、女子24%)と生徒の4/5人に1人の割合に達していた。

#### ・ 内訳…一生懸命取り組んでいるものうち、最も多かったのは、「部活」で、40%前後(男子45.3%、女子37.4%)であった。「勉強」と回答した生徒は、男女とも5%弱(男子4.5%、女子4.9%)のとどまった。

・ 意欲の状況(保護者)…内容に関わらず一生懸命取り組んでいることが「特にない」と回答した人が10%

前後(男性5.9%、女性11.6%)と高校生に比べると意欲のない人の割合は半分以下であった。

・ 内訳…一生懸命取り組んでいるものうち、最も多かったのは、男女とも「仕事」であったが、割合は異なり男性64%女性32%であった。「子育て」と回答した保護者は、女性では27.4%と三割近かったが、男性では9.4%とどまっていた。

### ■ケータイ・パソコン使用の現状

#### 四・ケータイ使用開始年齢

・ ケータイ所持率…高校二年生のケータイ所有率は男子96.1%、女子98.6%とほぼ全員の生徒が所有していた。

#### ・ ケータイ使用開始年齢…所有している生徒のケータイ使用開始年齢を調べた。男子では、最も多かったのが、高校生になってからで男子43.8%、次が中学生時代で男子39.7%

であった。一方、女子では、中学時代が最も多く女子42.0%、高校生になってからは女子35.5%で、男子より女子の方が全体的には早く携帯電話所持し始めていた。また、小学校入学前という極めて早期に所持しているものも男子10%、女子0.2%とわずかではあるが存在していた。

#### 五・ケータイ使用状況

・ ケータイ使用時間…一日のケータイ使用時間(見ている時間も含めて)は、男子3.3時間、女子4.5時間で、前述の家庭学習時間に比べると極めて長時間であり、女子の方が長時間であった。また、昨年度の調査結果と比べると、家庭学習時間は減少し、ケータイ使用時間は増加するという結果が観察された。

・ ケータイ登録人数、連絡実人数…ケータイに登録されている人数を尋ねた。平均すると男子は71人で、女子は

87人と極めて多数の人数が登録されていた。そのうちよく連絡する人数は、平均すると男子13人、女子11人と10人程度であった。

六、ケータイ使用内容・依存度

・ケータイ使用内容…ケータイで一番利用するのは何か利用の内容を尋ねた。男女とも最も多かったのが、「メールをする」で男子53.5%、女子51.7%と半数を超えていた。その他、使用が10%を越えていたものは、「mixi」、モバゲー、GREE、Twitterなどコミュニケーションサイト利用が男子15.2%、女子14.0%で、女子ではこの他に、「HPを見る」が11.4%、「ブログをする」が11.0%であり、男女とも通話利用はほとんどないことが明らかとなった。

・ケータイ依存度…「ケータイを家に置き忘れて外出。どのような気持ちになるか?」を尋ねた。「何とも思わない」という非依存群は男子31.8%、女子20.8%で、「不便だと思ふ」という機能的依存群は男子39.7%、女子40.0%と男女とも40%前後で最も高率であった。残りは精神的依存群であるが、その割合は男子に比べ、女子の方が高率であった。

七、SNS利用状況①

・SNS利用状況①…パソコン(PC)及びケータイでのSNSソーシャルネットワークワーキングサービス(mixi、モバゲー、GREE、Twitterなど)の利用状況…男子56.3%、女子52.1%と半数以上がSNSを利用しており、生徒たちに一般化しつつあることが示された。

八、SNS利用状況②

・SNS利用状況②…パソコン(PC)所持率…自分専用を持っている生徒は男子19.9%、女子12.8%と10〜20%程度であったが、「家族共有のパソコン使用」は男子61.5%、女子71.5%とかなりの高率であった。

九、各種リスク行動と学外行動

・各種リスク行動(高校生)…高校二年生の喫煙、飲酒、薬物使用、向精神薬使用、性関係、万引き、暴力(加害・被害)、いじめ(加害・被害)、ネットいじめ(加害・被害)、自傷行為、アルバイトについて尋ねた。睡眠薬・精神安定剤等の向精神薬の使用は男子3.0%、女子5.2%と少なからず存在した。大麻等違法薬物は、1%未満で少数であったが、使用者が存在していた。性経験率は男子13.9%、女子15.1%であり5〜6年前に比べると低下傾向が観察された。いじめ被害は男子16.0%、女子24.9%で女子の方が高率であり、自傷行為は男子3.2%、女子10.2%と女子が高い傾向は変わらなかった。これらの割合は学校により大きな差があり、学校によってはいじめ被害が50%、自傷行為が30%を超える学校も存在した。

十、精神的健康

・メンタルヘルスの不健康状態(高校生)…「激しい怒りの頻度」は、「よくある」と回答した生徒が男子11.4%、女子13.5%で、「孤独感の頻度」は、「よくある」と回答した生徒が男子9.1%、女子15.5%で、「絶望感の頻度」が「よくある」と回答した生徒が男子10.8%、女子13.8%で、いずれも10人に1人の生徒が不健康なメンタルヘルスの様相を呈しており、わずかではあるが女子の方が高率であった。「強い喜びの感情の頻度」では、「まったくなかった」は男子5.7%、女子1.8%と先ほどとは逆に男子が高率であった。

十一、自己肯定感(高校生)

・自己肯定感(高校生)…「自分には欠点があるか?」を尋ねた。「とてもある」が男子61.8%、女子71.6%で最多であったが、「まったくない」「あまりない」と回答した群が男子6.6%、女子1.5%と少なからず存在していた。一方「自分にはいいところがあるか?」という質問には「少しある」が男子76.9%、女子72.8%と最多で高校生より

も20%程度高率であり、「まったくくない」と回答した群が男性0.3%、女性0.5%と極めて低率であり、保護者と比べると高校生の方が自己肯定感が低いことが示された。

・**作り笑い頻度(高校生)**..「おかしくなくても、友だちの前で無理して笑うことがあるか？」という質問をした。「よくある」という高頻度群は男子17.0%で、女子18.3%で約二割弱程度存在していた。

生)..「あなたのこと

を本気で心配してくれる人がいるか？」という質問をした。「いる」と断言した生徒は男子31.9%で、女子42.4%で約三〜四割であった。一方「いない」と回答した生徒は男子5.1%、女子2.7%と少なからず存在していた。

・**本気で心配してくれる人の存在の有無(保護者)**..「あなたのことを本気で心配してくれる人がいるか？」という質問をした。「いる」と断言した保護者は男性59.4%で、女性71.6%で約六〜七割であり、高校生に比べると二倍近い高率であった。一方、今回の対象の生徒のうち、保護者がいない生徒は5%前後は存在するが、保護者がいるにもかかわらず、本気で心配してくれている大人がいるという実感が相当数存在するといふことは親子関係の希薄化等憂慮すべき事態の可能性が示された。

された。

・**自分らしく過ごせる場(高校生)**..「あなたが一番自分らしく過ごせるのはいつ(どこ)？」を尋ねた。男女とも最多は「友達」といふときで男子32.3%、女子28.5%と30%前後の生徒が友人といふときを選んでいた。女子では次は「家族と一緒に」とき<sup>22.7%</sup>、「家で一人であるとき」<sup>20.8%</sup>であった。男子では二番目は「家で一人であるとき」<sup>19.0%</sup>、次が「趣味に没頭しているとき」<sup>17.0%</sup>と続いた。「自分らしく過ごせることはまったくない」は男子2.0%、女子1.0%と低率ではあるが、居場所のない生徒の存在が示された。

十二. 問題対処力

・**問題対処力スコア(高校生)**..①「一度失敗しても次は上手くいくように工夫する」が27.7%、②「困ったときは自分ができることをまずやる」<sup>27.7%</sup>、③「困ったときは様々な角度から考

える」<sup>24.8%</sup>「失敗したときに自分のどこが悪かったかを考える」という設問に対し、「とてもあてはまる」から「まったくあてはまらない」までの五段階の回答に5点から1点までを与え、それを合計して問題対処力として算出した。合計点は4点から20点の範囲であるが、4〜11点を問題処理力の弱い群、12〜16点を問題処理力の中等群、17〜20点を問題対処力の高い群と分類した。問題処理力が高い群は、男子24.7%、女子20.0%と4〜5人に1人の割合であった。逆に問題対処力の弱い群は、男子9.6%、女子11.3%と男女とも一割程度存在した。

問題対処力スコア(高校生)

・**間違い指摘に対する態度(高校生)**..「自分の間違いを注意されるとどのような気持ちになるか？」を尋ねた。男子では、最多は「納得する」<sup>19.6%</sup>であったが、女子の最多は「落ち込む」<sup>24.8%</sup>であった。「自分が否定されたような気持ちになる」が男子6.0%、女子8.6%と少なからず存在し、注意することの難しさの一端が明らかとなった。

十三. 他者や周囲への共感性

・**共感性尺度(高校生)**..①「親しくない人でも、泣いていたらとても気になる」②「しつこくからかわれている人を見ると、かわらなくていい人に対して腹が立つ」③「仲間はずれにされている人を見るとかわいそうになる」など、類似三項目の質問をした。各項目を「自分によくあてはまる」から「自分とは全く違う」までの五段階で点数化し、最低2点から最高点10点で、保護者の点数の分布を調べた。

・**共感性尺度(保護者)**..①「親しくない人でも、泣いていたらとても気になる」②「仲間はずれにされている人を見るとかわいそうになる」など、類似二項目の質問をした。各項目を「自分によくあてはまる」から「自分とは全く違う」までの五段階で点数化し、最低2点から最高点10点で、保護者の点数の分布を調べた。

十四. 社会性

・**社会性尺度(高校生)**..①「身の回りの整理整頓はきちんとする」②「学校の規則は守

る」など、類似二項目の質問をした。各項目を「自分によくあてはまる」から「自分とは全く違う」までの五段階で点数化し、最低2点から最高点10点で、保護者の点数の分布を調べた。

・2〜5点を社会性低い群、6〜8点を社会性普通群、9〜10点を社会性高い群と定義した。社会性低い群は、男子19.7%、女子20.7%と約20%前後の生徒が社会性が低いことが示された。

・**社会性尺度(保護者)**..

①「身の回りの整理整頓はきちんとする」②「約束の時間は必ず守る」など、類似二項目の質問をした。各項目を「自分によくあてはまる」から「自分とは全く違う」までの五段階で点数化し、最低2点から最高点10点で、保護者の点数の分布を調べた。

・2〜5点を社会性低い群、6〜8点を社会性普通群、9〜10点を社会性高い群と定義した。社会性低い群は、男子4.9%、女子6.6%と約5%前後であった。質問内容が若干異なるため、単純な比較はできないが、保護者に比べ高校生の方が社会性が低いことが示された。

**十五. 規範性**

・**規範意識(高校生)**..①

「買い物などの列に並ぶとき途中から割り込むこと」②「遅刻や提出物忘れのとき嘘をついて言い訳すること」など、類似五項目の質問をした。各項目を「自分によくあてはまる」から「自分とは全く違う」までの五段階で点数化し、最低0点から最高点25点で、生徒の点数の分布を調べた。

・0〜10点を規範意識低い群、11〜20点を規範意識普通群、21〜25点を規範意識高い群と定義した。規範意識低い群は、男子18.1%、女子8.7%と男子生徒の方が規範意識が低いことが示された。

・**規範意識(保護者)**..

①「買い物などの列に並ぶとき途中から割り込むこと」②「遅刻や提出物忘れのとき嘘をついて言い訳すること」など、類似五項目の質問をした。各項目を「自分によくあてはまる」から「自分とは全く違う」までの五段階で点数化し、最低0点から最高点25点で、保護者の点数の分布を調べた。

・0〜10点を規範意識低い群、11〜20点を規範意識普通群、21〜25点を規範意識高い群と定義した。規範意識低い群は、男子2.3%、女子0.8%であった。規範意識は高校生の方が極めて低いことが示された。このことより親の規範意識が子どもに伝えられていない可能性が示唆された。

**十六. 高校生の周囲との人間関係**

・**周囲との人間関係(高校生)**..友だち、先生、女性保護者、女性保護者について「その人を心から信じられるか?」という信頼感を尋ねた。「とてもそう思う」と回答した信頼感を強く感じている生徒が、友人では、男子42.6%、女子51.0%、先生では、男子20.1%、女子19.9%、女性保護者では男子38.8%、女子52.9%、男性保護者では男子31.7%、女子34.1%という結果で心から信じられるのは男子では友人、女性保護者、男性保護者、先生の順で、女子では女性保護者、友人、男性保護者、先生の順であった。

**十七. 保護者の子どもに対する態度**

・各質問に対し「とてもそう思う」と回答した保護者の割合を示す。①「とても過保護だと思う」と回答したのは男性9.7%、女性8.2%と約10%弱であった。②「子どもが好きであるのはとても好ましい」は男性35.3%、女性57.2%であった。③「子どもと一緒にいるのはとても楽しい」は男性37.8%、女性53.0%で、④「子どものいいところでなく悪いことばかり目に付く」は男性6.3%、女性5.2%であった。⑤「子どもの考えを真剣に理解しようとしている」は男性33.8%、女性39.8%で、⑥「就職先は家から近いところにしてほしい」は男性5.6%、女性15.8%で、⑦「子どもが自分の言うことを聞かないととても腹が立つ」は男性15.0%、女性12.6%であった。一方⑧「だめなところがあっても子どもは宝だと思う」は男性65.6%、女性78.4%と七〜八割と大多数保護者がそのように感じていた。

(文責 木原 雅子)



### 東京都立文京高等学校

## 校訓 「至誠一貫」

夢を叶える通り道 努力の汗 感動の涙 僕らの本気が文京(ココ)にある

#### 【学校概要】

本校は、昭和十五年に第三東京市立中学校(男子校)として設立され、昭和十八年の都制実施に伴い東京都立豊島中学校へと校名変更後、昭和二十五年に男女共学の東京都立文京高等学校となり、現在に至っています。

これまで、卒業生は二万三千人を超え、昨年は創立七十周年という節目を迎えました。

校訓「至誠一貫」は、開校入学式の第一声であり、今でも入学式はこの言葉で始まります。

平成二十二年度、都教育員会から、「学力向上開拓推進校」「部活動推進指定校」「スポーツ教

育推進校」として、また

東京都スポーツ振興局から「東京アスリート育成推進校」の指定を受け、文字通り文武両道の教育活動を展開しています。



正門から中庭

#### 【特色ある教育活動】

生徒が生き生きと活躍し、活力ある学校であり続けるため部活動と学校行事、そして進学指導の充実は不可欠です。

本校では、平成十五年度から二学期制を導入し、二大行事である体育祭・紫雲祭(文化祭)を前期に置くことで、後期は授業に集中できるように配慮しています。行事の盛り上がりも素晴らしく、体育祭は平日にもかかわらず、保護者や地域

の方が多数参観します。



体育祭(文化祭)の保護者や多くの生徒が参観する様子



紫雲祭(文化祭)の多くの来客と野外演奏の様子

紫雲祭はこの数年、二日間ですべての来客を収容するほどの来場者があります。

本校の部活動は、一、二学年生徒の九割以上が加入しています。昨年は、水泳部、陸上部、吹奏楽部

が全国大会に出場するなど大いに活躍しています。また、生徒個々の進学希望を叶えるため、一年次にセミナー合宿を実施し、卒業生を中心としたサポーターティーチャーを導入、全生徒へ自主学習室の利用を推進し、夏季休業中には受験に合わせた補習授業や自主学習マラソンを企画するなど、手厚い指導が行われています。

また、今年度は第五回目の校内研修大会「文京フォーラム」が開催されました。教職員全員が、教育活動の成果と課題を共有し互いに検証し合う組織体制を確立しています。今年度は「知の探究の重視等」をテーマとして開催されました。先生方の発表も大変熱がこもり、保護者の参加も増えています。助言指導の講師の方から「文京高校のフォーラムは先進的な取り組みであり、他の学校にも紹介したい」と、高い評価を受けています。

#### 【PTA活動】

生徒が伸び伸びとした学校生活を送り、部活動や学校行事などに積極的に取り組めるよう、本校

のPTA活動は、先生方と保護者が力を合わせて取り組んでいます。運営委員会を要に、学年、文化、広報の各委員会がさまざまな活動を展開しています。その一部をご紹介します。

#### ●PTA講演会

スポーツ現場からの「食育」をテーマに、オリンピック選手の栄養サポーター担当者を講師に招き、お弁当作りの参考になるお話を伺いました。

●卒業生PTA展示  
体育祭を中心に各種行事のDVD上映、学校見学を兼ねた来場者に広報誌閲覧、茶菓のおもてなし等、各委員会、運営委員会で参加します。

#### ●広報誌の発行

広報委員会では、年二回の広報誌「むらさき」を発行しています。学年ごとに記事や写真を分担し、総勢二十二人で編集しています。

●バス研修会  
先生方と保護者の親睦も兼ねて日帰りバス研修を企画。これまで、手びねりやハープ染めの体験学習が好評でした。



バス研修会  
河口湖にてハープ染め

●PTA見学会  
警視庁や旧法務省を見学後、ミュージカル鑑賞へ。応募者が多く毎年満員御礼状態となります。

#### ●卒業対策委員会

卒業記念品として、PTAが撮った三年間のビデオや写真を編集したDVD二枚組を三百セット製作し、三年生に配布。忙しくて行事を見逃してしまつた保護者から感謝されています。生徒からも好評を得ています。

#### ●自主講座

和紙を使った絵のインテリア作り。土曜の午後のはひと時、楽しくおしゃべりをしながら進みます。



## 「の便り」 「ここにある」vol.12

ひたすらに頑張る子どもたち。をもって導く先生たち。Aの仲間の姿をお伝えします。



【学校の概況】

本校は、知床半島唯一の高校として昭和三八年「北海道標津高等学校」の分校（定時制一問口）として開校。昭和五〇年に二問口の全日制普通科として独立しました。現在の校舎は知床連山のすそ野にあたる丘の中腹にあり、眼下には国後島を臨む環境にあります。「海峡を埋め尽くす流水、息をも止める吹雪の猛威など知床の厳しい自然と対峙し、その厳しさのうちに自己を厳しく律し、常に反省を忘れない自己を確立しよう」の旨を校訓としています。

北海道羅臼高等学校

校訓「知床の自然の如く 厳しく美しく羅臼岳の如く 悠然と」

豊かな自然の中で、生徒一人一人の個性や可能性を伸ばす教育を目指す

の中で、生徒一人一人の個性や可能性の伸長を図り、確かな学力の定着を目指すとともに、ふるさと羅臼に、誇りを持つことができる人材を育成することを基本理念とし、町内四つ（現在二つ）の中学校と連携する「羅臼町中高一貫教育」が導入されました。学習部会、総合学習部会、特別活動部会を中心に、中高一貫教育の趣旨を生かした六年間を見通しての継続的な指導により、生徒個々の個性や可能性の伸長を図る教育活動が積極的に行われています。

【特色ある教育活動】

①知床学 中高一貫教育の連携の柱の一つ「郷土愛・勤労観の育成」を推進するために「知床羅臼町の豊かな自然や産業など、地域理解を深め、郷土に誇りを持つ人格の形成」を図る「知床学」の取り組みが行われています。中学一年と三年、高校二年を



②自然環境科目群

二学年から進学者向けの「文理コース」と就職者

対象として知床財団の協力を得て行う「クマ学習」、中学二年と高校一年、三年を対象として、実際に川や海にのけてのフィールドワークを通じて、地元の自然について学び理解する「生態系学習」、町内全中高生徒を対象とした「合同講演会」、中学校、高校別に行う「水産に関する講演会」を実施。その他、各校推進事業として、各校で取り組む「地域学習」を実施しています。

向けの「実務コース」の二コース制に分かれ、さらにその両方のコースから選択できる中高一貫教育「知床学」との連携を図った「自然環境科目群」を設置しています。知床概論ⅠⅡⅢ・野外観察・海洋生物・野外活動・観光基礎など



③特別活動での取組

町の一だ行事である知床開きにおいて百名以上の生徒が参加して演舞をする知床豊漁の舞や、全校生徒による知床横断遠足でのゴミ拾いと交通安全



全の呼びかけ、中高生徒全員が町内に点在する各漁港を清掃する町内一斉清掃ボランティア活動など、体験的・奉仕的な活動にも積極的に取り組んでいます。

【PTA活動】

本校PTAは積極的に創造的な活動を長年にわたって展開してききました。地域的事情によって経験が浅く、異動も頻繁な職員集団を支えて、自主性と創造性を発揮した次のような活動を継続して行っています。



①父ちゃん母ちゃん屋台 学校祭の際に、焼き鳥やつぶ焼きなど地元ならではの食材を用意した屋台を出し、生徒のみならず、一般の来校者にも喜ばれ、学校行事への積極的支援を行っています。

③PTAレクリエーション 年に一度、保護者・教職員が一緒に軽スポーツなどを楽しみ、その後の懇親会で大いに親睦を深めています。

④学校開放講座 PTAの企画・運営で開催し、そば打ち講習やパソコン講習など、学校関係者のみならず、地域の方々にも参加を募り、学校と地域との結びつきを強めています。

⑤PTAだより 学校の近況やPTAの諸活動の報告等のため、年三回PTAだよりを発行し、町内全戸に配布しています。

⑥巡回活動 知床開きや漁火まつりなど、年3回の町内祭典で巡視を行い、生徒達の健全育成の一貫として活動しています。

以上のような様々な活動を通して、羅臼高校の教育活動を陰に日向に支えているPTAは、誠心力強い存在であり、お父さんお母さんのエネルギーシユな活動ぶりが生徒達に明日の元気を与えてくれています。

②知床横断遠足での支援 安全指導やゴールでのうどんの提供等の協力をしています。特製のうどんは、生徒に好評で何杯もおかわりする生徒が出

シリーズ **視** 点

『ケータイ甲子園2010』

「第1回全国高校生ケータイ利用コンクール『ケータイ甲子園2010』」は、高校生によるケータイの自主的な活用法を集め、優れた事例を表彰することによって、ケータイのポジティブな使い方を広め、問題点についての理解を深め、賢い対応法が身につくことを目的として実施し、全国17都道府県、30校、35チームからのご応募がありました。沢山のご応募、誠にありがとうございました。応募いただいた作品は、第1回大会とは思えないほど、高校生の皆さんの思いがこもった力作ばかりです。http://www.kt-koshien.jp/

この本選大会は平成23年3月13日に実施の予定でしたが、3月11日に発生した東日本大震災の影響により、当日の開催はやむなくいったん中止といたしました。しかし、全国大会への出場を楽しみに準備を重ねてきた出場チームのことを考え、できれば日程を変更した上で、当初予定に沿って大分で開催する方向で、その可能性を検討することといたしました。開催時期については、新年度前半を目標としつつ、震災の影響で状況が流動的であるため、今後の社会的情勢を考慮した上で決定するものといたします。また全国大会は、当初予定の10チームの参加で実施する方針ですが、開催時期や発表方法、審査方法などを含めて、柔軟に対応する予定です。

関係者のみなさまには、ケータイ甲子園の開催に向け、多大なご協力をいただき心から感謝申し上げます。開催延期により、さらにご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、どうぞご事情をご理解いただき、引き続きご協力いただけますよう、何卒お願い申し上げます。



◆出場校発表内容

◇コミュニケーション部門

<p><b>弓削商船高等専門学校 (愛媛県)</b> 「SNSとメーリングリストで作る島っ子コミュニケーション」学校が瀬戸内海の小さな島にある為、SNSを活用して、遠くに住んでいるクラスメイトの日常を知り、クラスの絆を深めた。</p>	<p><b>大分県立別府青山高等学校</b> 「心温かいケータイ活用」をめざして」生徒に携帯電話活用に関するアンケート調査を実施し、パンフレットを作成。生徒会と連動し、生徒の意識改革の為に校内にポスターの掲示を行った。</p>
<p><b>自由学園高等科 (東京都)</b> 「同世代コミュニケーションからの提言」携帯電話に関する犯罪に巻き込まれない方法、携帯電話に依存せずに人と付き合う方法を小中学生にレクチャーし、アンケートを取り、結果から携帯電話への理解を考察。</p>	<p><b>岐阜県立岐阜総合学園高等学校</b> 「Mobile 広報プロジェクト」地域や保護者の方々で行う活動の広報用のチラシをWEB上に作成しQRコードを用いて携帯での閲覧を容易にした。</p>
<p><b>奈良県立奈良朱雀高等学校</b> 「環境美化日常的ビフォーアフターケータイ Photo コンテストの実施」校内美化の為、校内で汚れが目立つ所を携帯電話で撮影し、清掃活動を行った後、改めて同じ場所を撮影する。写真のコンテスト形式で校内美化の意識を高めた。</p>	<p><b>栃木県立佐野松陽高等学校</b> 「ケータイで修学旅行を楽しくしよう」修学旅行に行く際、旅行先での情報共有を目的に、生徒自身が提示版サイトの作り方を調べ、携帯電話で写真を撮影し、投稿できるサイトを設置した。</p>

◇アート&サイエンス部門

<p><b>滋賀県立甲南高等学校</b> 「薬草データベースを引き継ぎよりよいものに」フィールドワークの際に撮影した写真を学校のパソコンに送り、DBを充実させる。また、ネームプレートにQRコードを印刷しており、携帯での薬草情報確認も可能。</p>	<p><b>北海道滝川高等学校</b> 「シート de CORATION」携帯電話の待受画面と携帯電話のフレーム部分をコーディネートした新感覚アートな携帯デコレーションを提案。専用のアプリケーションを使用し、自分好みのデコレーションを誰でも制作出来るアイデアを考案。</p>
<p><b>大分県立別府青山高等学校</b> 「Let's making 温もり着信音!」着信音を自分で作成してみたいという意見を元に「SoundEngineFree」というソフトウェアを利用して、自分たちの録音した声で着信音を作成した。温もりのある着信音が出来上がった。</p>	<p><b>岡山県立岡山工業高等学校</b> 「PICエミュレータ PiQ」制御用IC (PIC) のエミュレーターを開発。このエミュレーターを携帯電話用に移植し、携帯電話だけで制御実習が出来るようにした。場所を選ばずに授業の予習・復習が可能となった。</p>

主催：ケータイ甲子園実行委員会、共催：安心ネットづくり促進協議会、大分合同新聞社

後援：内閣府、総務省、経済産業省、大分県、大分県教育委員会、社団法人全国高等学校PTA連合会、朝日新聞社、日刊工業新聞社、毎日新聞社、読売新聞西部本社、共同通信社、時事通信社、NHK大分放送局、OBS大分放送、TOSテレビ大分、OAB大分朝日放送、読賣テレビ放送

◆お問合せ：社団法人ハイパーネットワーク社会研究所内ケータイ甲子園事務局  
097-537-8180 info@kt-koshien.jp (渡辺・工藤)

### 第二回総会・会長事務局長会議報告 組織の役割を果たして子どもたちを応援したい

平成22年度第二回総会が2月5日、文部科学省社会教育課長のご臨席のもとに開催された。また、会長・事務局長会議は翌6日に開かれた。

総会の冒頭、高間専逸会長から、国の動きが混乱する中で、全高P連は国の状況をふまえながら、県高P連は都道府県と協議するなど、全国(高P)と県(高P)連がそれぞれの役割をしっかりと担って、PTA組織を充実させることで、子どもたちを応援したいと挨拶があった。

議事に入り、これまでの委託事業や、薬物乱用防止パンフレット発行事業が、助成元の事情で継続させることが難しい状況はあるものの、平成23年度事業計画ならびに予算案が審議され承認された。

#### 〈事業計画〉

23年度の事業としては、これまでの事業を引き続き継続させることに

決定した。

しかし、現状の予算規模では、助成元など環境に影響されない自主財源での事業推進がむずかしいことから、高間会長は、全高P連事業の精査と今後の会費について検討する委員会を新たに設置するとの方針を述べた。  
主な事業内容は本紙10ページを参照。

#### 〈4年後の全国大会〉

平成26年度第64回全国大会の開催を福井県に依頼した。これを受けて、福井県高P連会長楊原氏からは、「開催に向けて準備したい」と力強い決

意表明がなされた。

その他報告の主なものは次のとおり。

#### 〈新法人へ向けて〉

法律が改正され、新しい法律における法人に移行するまでの間、全高P連は現在、特例民法法人として位置づけられている。そこで、平成24年4月から、一般社団法人に移行する方向で準備を進めてきた。

全高P連としては一般社団法人への移行について、あらためて総会に諮り承認を得たい考えだ。

#### 〈講演〉

高校生の自転車自己責任を考える  
弁護士 高山 俊吉氏

総会の議事終了後、高山弁護士による講演会が開催された。高山弁護士は交通事故に関する民事賠償請求事件に長くかわり、交通安全教育にも造詣が深いことから、具体的な事例が紹介された。中でも、自転車事故で

怪我をさせ、裁判の結果、保護者ではなく中学生本人に数千万円の賠償請求がされた事例などは、身近な問題として賠償保険の大切さを考えさせられた。

#### 会長・事務局長会議

本年度第二回会長・事務局長会議では、冒頭に昨年夏行われた生徒と保護者対象のアンケート「高校生 生活・意識調査」の結果分析を中心に、京都大学准教授木原雅子氏の報告があった。高校生の学習時間が昨年よりも少なくなっているなど、心配な結果が報告された。本紙4ページを参照されたい。

次いで北海道大会についての案内と説明、ほか保険会社より賠償責任補償制度に関係する支払い状況などの報告があった。

#### 児童福祉週間

毎年5月5日の子どもの日から一週間を児童福祉週間と定めております。各団体・組織の取り組みをお願いします。

(内閣府)

日本の高校生を元気にする

## 高校生新聞® 高校生スポーツ®



「高校生新聞」は、高校生の活躍、分かりやすいニュース解説、生活アドバイス、勉強上達法などが満載。「高校生スポーツ」は、高校の運動部、各種大会を徹底取材し、スポーツする高校生に役立つアドバイスコラムも充実。高校生はもちろん、先生方、保護者、中学生も必読です。



### 高校生のための夢探し、自分探し 夢現塾 & 校内ステップアップ進学相談会

各界で活躍する講師の講演と、生徒が希望する大学・短大・専門学校の入試相談会を校内で無料開催。

首都圏で420の高校が利用

## 大学情報ステーション



学校をサポートする総合教育事業を展開!!  
株式会社 スクールパートナーズグループ

## 高校生新聞社

〒194-0022 東京都町田市森野1-34-10 TEL.042-724-2750  
FAX.042-724-2710 <http://www.koukousei-sinbun.co.jp>

■1993年10月創刊 ■タブロイド判 平均28頁

# 平成二十三年（社）全高P連活動方針

## 〔基本方針〕

「教育振興基本計画」には「社会全体で教育の向上に取り組む」ことが示されており、身近な場所での子育て等の支援を謳っています。PTAの活動は、まさしくこの子育て支援であると言えます。そして子育て支援の適正を図り充実を期するためには、自らが調査研究したり、研修に努めたりすることが大切です。

本連合会は、社会環境が大きく変化を遂げるなかで、子どもたちの成長・発達に力を注ぐのみならず、阻害要因から守り防ぐための情報収集及びその周知をしなくてはなりません。

事業計画（抜粋）  
○高校生 生活・意識調査  
昨年に引き続き高校生の実態調査を行い継続的に高校生の現状を探る。調査対象は全国45校の高校二年生で、延べ7,500名を予定している。

○薬物乱用防止パンフレット「お父さん、お母さん『うちの子に

限って』は危険です」の発行  
昨年度の調査では家庭での学習時間が一昨年にまして激減しており、学校の授業についていけない子どもたちが増加しており心配されている。

○第5回「高校生と保護者の進路に関する意識調査」  
21年度調査については昨年5月、日本経済新聞が「高校生 授業脱落4人に1人」の見出しで取り上げ、地域・家庭で支援が必要と報じた。

○薬物乱用防止パンフレット「お父さん、お母さん『うちの子に

は昨年4月、読売新聞が「進路の助言困難75% 高校生の親3割は経済的理由」の見出しで取り上げた。

は昨年4月、読売新聞が「進路の助言困難75% 高校生の親3割は経済的理由」の見出しで取り上げた。

そのほか、有害情報が氾濫する中でネット社会における子どもたちへの支援を行う。

## 〈全国大会〉

第六十一回全国大会北海道大会は札幌市内の北海道立総合体育センター「北海きたえーる」をメイン会場として、開催します。テーマは「いのち輝け！人・夢・愛 ひとむきに頑張る君たちを応援したい」。

日程は8月24日から26日の3日間。  
〔12ページ参照〕

## 〈地区大会〉

23年度の地区大会は全国九地区で開催される。日程と主な開催地はつぎのとおり。

- ・北海道地区大会  
6月11日（土）札幌市

- ・東北地区大会  
7月7日（木）・8日（金）  
仙台市

- \*東北地区大会については、震災の影響で日程など変更する場合があります。
- ・関東地区大会  
7月8日（金）・9日（土）  
宇都宮市

- ・東京地区大会  
7月9日（土）千代田区
- ・北信越地区大会  
7月8日（金）・9日（土）  
金沢市

- ・東海地区大会  
6月16日（木）岐阜市
- ・近畿地区大会  
7月1日（金）・2日（土）  
大津市

- ・中国四国地区大会  
7月15日（金）広島市
- ・九州地区大会  
6月16日（木）・17日（金）  
宜野湾市

## 〈広報活動〉

全高P連のホームページと「（社）全高P連会報」を一層充実させて、本会の活動を早く正確に広く周知して各校のPTA活動に資する。

（社）全国高等学校PTA連合会 後援  
**AIU 高校生国際交流プログラム**  
(参加費無料)



**国際交流を超える人間交流**

世界へ羽ばたく  
青少年を応援します



AIU 高校生国際交流プログラム事務局  
Tel 03-5819-8288  
Email hsd@highschooldiplomats.org  
http://www.highschooldiplomats.org/

MS&AD 三井住友海上

さあ来い! リスク。

リスクとトータルに戦う  
総合保険ブランド[GK]



三井住友海上火災保険株式会社  
〒104-8252  
東京都中央区新川 2-27-2  
www.ms-ins.com

TOKIO MARINE NICHIDO

地球の未来にできること。  
マングローブ「海の森」づくりは、  
その答えのひとつです。



東京海上日動火災保険株式会社  
東京都千代田区丸の内1-2-1  
〒100-8050  
http://www.tokiomarine-nichido.co.jp/

日本の保険は、  
ジャパンが変える。



**損保ジャパン**

株式会社 損害保険ジャパン  
〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1  
TEL. 03(3349)3111  
ホームページアドレス http://www.sompo-japan.co.jp

## 各委員会報告

## 健全育成委員会

委員長 揚原 安磨

本年度は当委員会にとつて、転換点となる年でした。これまで、全高P連の事業は、地区・県連・各校PTAの皆さん

にご協力をいただきながら、文科省や宝くじ財団の委託事業として実施してきました。しかしながら、事業仕分けに象徴される公としてのお金の使い方の方の見直しの中で、本当にやりたいことは自らの意思と力でやることを求められてきています。

「高校生の実態調査」も、「薬物乱用防止のバレット」も、意義深い事業であることは変わらなくとも、それを自己資金でも実施する気概がなければ、継続が困難となります。幸い実態調査は、日本財団殿のご理解で次年度三百万円近い助成をいただき、継続が可能となりました。

長期的には、会費の値上げも含めた自己資金での運営を確立していくこ

とが必要です。貴重な財源と皆様の汗を投入して行う事業であるからこそ、更に有意義な目標とやり方を模索することが委員会の責任とと思います。

## 進路対策委員会

委員長 池内 勝彦

①次年度の第五回「高校生と保護者の進路に関する意識調査」の実施について…第四回迄の内容をふまえて、調査を委託するリクルート社に対してのアンケート項目や集計方法についての要望事項を討議しました。

②新規高等学校卒業予定者に対する雇用促進について…引き続き厳しい雇用情勢が続く中、文案の検討だけでなくより有効な要望方法についても検討しました。

③本年度の総括…昨年度に実施した第四回「高校生と保護者の進路に関する意識調査」調査の活用方法につ

いては全国大会で内容紹介のリーフレットを配布しました。また新規卒業予定者に対する雇用促進（六月）・雇用確保（十月）についての要望活動を行いました。

## 調査広報委員会

委員長 榊原 綾子

第三回委員会では、まず前号の総括と今号の企画を行いました。その中で、読者である会員の皆様により関心を持って会報を読んでいただくために、表紙の使い方を検討しました。その号の内容がつかみとれるような目次の作り方をしてみようと、今号では二段のスペースを使ってみました。

次年度への申し送りについては、会報シリーズの継続、全国大会北海道大会での「全国単位PTA広報紙展示」事業の実施を決めました。また、これまで力を入れていた紙面の改革をさらに進めることを確認しました。

全高P連の情報発信源としての役割を充実させるために、委員会として重要課題と捉えています。また、HPの存在をPRし、利用していただくための方策などについても検討しました。まずはご覧いただくこと、そしてお一人おひとりの言葉で伝え広げていただくことを願っています。ご協力をいただけますようお願い申し上げます。

## 研修委員会

委員長 松本 衆司

第四回の研修委員会は全国大会東京大会の報告、次年度開催の北海道大会の取り組み状況の確認、課題等の検討、大会宣言の確認等を行いました。又、次々年度開催の和歌山大会からは、大会概要案の提出があり、並びに特別第三分科会のテーマを「地域コミュニティとPTA」とすることの発表がありました。

懸案事項であった「全国大会のあり方・持ち方」についての申し送り事項に關しては、十一月に開催した第三回の研修委員会

において、その検討がなされ、今回の委員会ですべての都道府県市のPTA連合会が主管を受けることになった時でも活用することの出来る開催マニュアルとして、成案を確認することが出来ました。しかし、周知徹底の面から、次年度の北海道大会での活用は難しいと思います。山口大会に關して言えば、今回策定したマニュアルに沿って、全国大会の運営がなされる事と期待をしています。

賠償責任補償制度  
運営委員会

委員長 相川 順子

昨年度からの懸案でありました制度維持をする事を目的として、掛け金値上げの議論を経て二十二年六月総会にて報告し、二十三年四月から三百円の掛け金になりました。

また、この制度の内容や利用状況の確認をするとともに、自転車事故防止に向けた取り組みをしながら、この制度の普及活動を推進するために、DVDの作成をしました。

全高P連HPよりダウンロードもできますが、年度中には各県市高P連事務局にDVDを用意したいと考えております。各地区ブロック、県単位、単P等において、未加入高校への普及等に活用いたしたいと思っております。

一般社団法人  
移行準備委員会

委員長 荻莊 誠

平成二十二年一月に開催された本委員会において、本連合会の在り方として公益法人への移行が難しいという結論を得て、一般社団法人へ移行する準備を進めています。

本年度は三回の委員会と、拡大委員会を一回開催し、定款の骨格づくりを始めました。本年二月の第二回総会に定款の素案を提出し、今後は六月の総会において承認していただく予定です。



# メインテーマ 『いのち 輝け!』

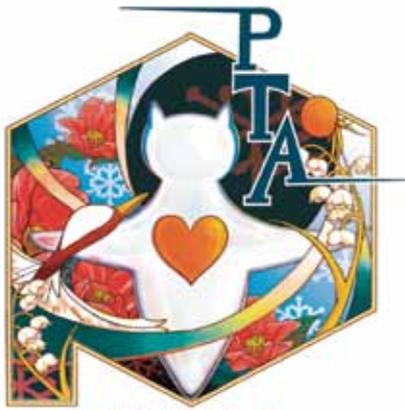


## 第61回全国高等学校PTA連合会大会

# 北海道大会のご案内

### 第61回 全国高等学校PTA連合会大会

## いのち 輝け!



### 北海道大会

開催日/平成23年8月24日(水)・25日(木)・26日(金)  
会場/北海道立総合体育センター「北海きたえーる」

札幌コンベンションセンター・ニトリ文化ホール・札幌パークホテル  
札幌市民ホール・札幌市教育文化会館・札幌プリンスホテル

主 催/社団法人全国高等学校PTA連合会 主 管/北海道高等学校PTA連合会  
後 援/文部科学省、全国高等学校長協会、北海道、北海道教育委員会、札幌市、札幌市教育委員会、  
北海道高等学校長協会、北海道高等学校教員 勤労委員会、北海道公立学校事務委員会

子どもたちを取り巻く環境が大きく変化する中で、私たちは、子どもの「いのち」に寄せる根源的な願いを、今一度見つ

【趣旨】  
大会のメインテーマは「いのち輝け!」で、サブテーマに「く人・夢・愛 ひたむきに頑張る君たちを応援したい」を掲げています。

第六十一回全国高等学校PTA連合会大会北海道大会が平成二十三年八月二十四日(水)二十五日(木)二十六日(金)の三日間、北海道立総合体育センター(北海きたえーる)をメイン会場として開催されます。

子どもたちを取り巻く環境が大きく変化する中で、私たちは、子どもの「いのち」に寄せる根源的な願いを、今一度見つ

※「シンボルマーク」は、北海道の木、花、鳥をあしらひ、「タンチョウ」が未来に向かって大きく羽ばたく姿を表現した。「ポスター」は、雪の結晶である六角形を北海道に図案化し、中央に「クリオネ」をおき、大会テーマの「いのち」を表現した。いずれも高校生の作品である

め直してみたい。人と自然が響きあうここの北の大地で、人々とのふれあいを通して「いのち」の現在と未来を見つめ、子どもにとつて必要なものは何か、親として何をしなければならぬかを、あらためて語り合いたい。

みなさまのおこしをお待ちしております!



### ○8月25日(木)・8月26日(金) 会場：北海きたえーる

大会 第1日		大会 第2日	
時間	8月25日(木)	時間	8月26日(金)
8:30~	受付	8:30~	受付
9:00~9:30	高校生アトラクション	9:00~9:50	高校生アトラクション
9:40~10:30	開会式・表彰式	10:00~11:10	『記念講演』 小菅正夫氏 (前旭山動物園園長)
10:40~11:50	『基調講演』 香山リカ氏 (精神科医・立教大学教授)	11:20~12:00	閉会式 大会宣言 次期開催県挨拶
12:00~	昼食		
12:10~12:40	アトラクション(会場移動)		
13:00~	受付(分科会)		
13:40~16:10	分科会(各会場)		

### ◎分科会会場

- 第1分科会：北海きたえーる
- 第2分科会：札幌コンベンションセンター
- 第3分科会：ニトリ文化ホール
- 第4分科会：札幌パークホテル
- 特別第1分科会：札幌市民ホール
- 特別第2分科会：札幌市教育文化会館
- 特別第3分科会：札幌プリンスホテル

### ○8月24日(水)前日日程

会場：ホテルライフオーブ札幌

時間	行事
13:00~	受付
13:30~14:30	大会運営会議
14:30~14:50	研修委員会打合せ
15:00~16:00	全国事務局長会議
15:00~17:15	分科会別会議
17:30~19:30	歓迎セレブション